



大阪府高等学校  
生物教育研究会

協力会だより

令和 5(2023)年 4 月 28 日

第 2 8 号

## ごあいさつ

大阪府高等学校生物教育研究会協力会

会長 大島 みどり

協力会会員のみなさま、ご無沙汰しております。

また、新しく協力会会員になられたみなさま、おめでとうございます。

私たち大阪府生物教育研究会協力会会員は、みなさまのご入会を心より歓迎いたします。

みなさま方はよくご存知でいらっしゃると思いますが、現役の先生や生徒を応援する全国でも類を見ないこのシステムは、大阪の先輩方の熱い想いで発足し、現在に引き継がれているものです。未長く繋いで行きましょう。

ウクライナの状況の報道は日本では少なくなりましたが、今現在もウクライナのみならず戦争や災害で苦しみ続けている人々、特に子供たちがいることを私たちは忘れてはならないと思っています。

令和 2 年度のご挨拶には、新型コロナ肺炎について、「未曾有の」という言葉を使わせて頂きました。

3 年度は「日本でもワクチン接種が動き出しました。」と書かせていただきました。

今年は政府が「With the coronavirus」にシフトする中で、重度障がい者の保護者が「5 類になったら…」と期待される姿に「ウィルス自体は何も変わっていないんですよ。むしろ変化し続けているんですよ。」等お話ししながら、自己防衛しかないのが歯がゆい毎日です。

さて、今年度はいよいよ「日本生物教育会大阪大会 2023」が開催されます。

「ほんまにおもしろい生物教育」との大会主題にわくわく感いっぱいです。

昨年、久しぶりに対面の総会に参加させていただきましたが、事務局の若さに圧倒されました。

「大阪の生物教育はこれからまた新しいフレーズに入っていく」との思いを新たに、大阪の生物教育の明るい将来を確信いたしました。

後ほど協力会事務局から大会のお知らせとそれに伴う協力会費等のお願いがございます。

任意でございますが、ぜひ多くの会員の皆様にご協力いただき、さらに当日一人でも多くご参加いただいて、後輩たちの活躍や現在のカリキュラム等（大きく変化していて、私もよくわかりませんが…）を楽しんでいただけたらと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたしております。

# 今年度会費および寄付金のご依頼

大阪府高等学校生物教育研究会協力会事務局  
(北浦隆生・中井一郎)

本協力会では、会員の先生方に年 3,000 円(現職教員=協賛会員は 2,000 円)の会費納入と任意の寄付を依頼しております。これをもって研究会に対して年間 100,000 円の研究会への補助金を贈呈させていただいております。会長のごあいさつの中にもありますように、2023 年度には大阪で、第 77 回日本生物教育会全国大会も行われ、その結果研究会の財務もひっ迫した状況にあるといわれています。そこで今年度は、通常の研究顔への補助金 100,000 円に加えて、全国大会の記念誌への広告掲載や記念誌の買取などの形で、さらに 100,000 万円の協力をしたいと考えております(詳細は後述の総会で決定)。

そこで、今年度につきましては、会員の先生方には会費 3,000 円に加えて、大阪大会に向けての寄付金として 2,000 円のあわせて 5,000 円を納入していただければありがたいと考えております。なお、本協力会への支払いは原則任意ですので、それより多い額でも、少ない額でも構いませんので、ぜひご協力をよろしくお願ひします。なお、現職教員にあたる協賛会員につきましては、会費は 2,000 円で寄付金は任意です。全国大会で実務を担当いただいている方々ですので、特別の徴収は考えておりません。

会費振込用紙を同封しておりますので、そちらでの納入をよろしくお願ひします。また、振込用紙には、ぜひご近況をお書きください。コロナの影響もあり、協力会だより以外の協力会員の交流活動が行われておりません。お書きいただいたご近況を次以降の協力会だよりでご紹介させていただきたいと思ひます。

## さあ、いよいよ日生教大阪大会です

コロナウイルス感染症で 2020 年以降の日本生物教育会全国大会が順次 1 年ずつ延期されておりましたが、いよいよ 2023 年は大阪大会です。大阪大会の要項の簡易版を 3, 4 ページに掲載します。要項の詳細版については、研究会の HP で見るができます(紙ベースでの発行はありません)。次のアドレスを入力いただいても見るができます。

<https://drive.google.com/file/d/158NsJITVHu2R-Fcs2LFwtjL0CSAdfNKI/view>

また、右の QR コードから見ることもできます(17 ページもありますので、かなり重たいです)。



なお、参加申し込みは、5 月 8 日以降になります。協力会だよりではご案内できませんので、各自で研究会の HP をご覧になって申し込んでください。これもネットでの申し込みのみです。また、現時点では参加費については未定の様です。大会がオンラインと併催にするかどうかで、金額が大きく変わってくるそうで、5 月 8 日直前にならないと決まらなると聞いております。

当日参加も可能と思われませんが、その場合には現地研修への申し込み・参加はできません。

協力会でも、会員の一人でも多くの参加を通して、大会の成功を後押ししたいと考えています。



9. 大会記念冊子 「ほんまにおもしろい生物実践」

- 1章：ほんまにおもしろい授業づくり      2章：生徒研究発表用紙  
3章：指標生物調査

10. 研究発表・展示

- ア. 口頭発表（教員のみ申し込み可能）  
イ. ポスター発表（教員・高校生共に申し込み可能）  
ウ. 展示（日本生物教育会各支部，支部に関連する団体，業者）

11. 現地研修コース

- A：山コース（大台ヶ原）：2泊3日  
B：自然観察入門コース（箕面）：1泊2日  
C：大阪湾を味わいつくすコース～大阪湾沿岸の自然～：1泊2日  
D：DNAコース：半日  
E：ホネホネコース（自然史博物館）：半日  
F：海遊館コース：半日  
G：動物園コース：半日  
H：植物園コース（大阪公立大学附属植物園）：半日  
I：マンモスから学ぶ南港野鳥園コース：半日  
J：ユーグレナコース：半日

12. 大会参加申し込み

Web サイトよりご案内申し上げます。

申し込み開始 令和5年5月8日（予定）

参加費については申し込み開始までに HP にてご案内します。

懇親会の実施については今後方向性が決まり次第 HP にてご案内させていただきます。

<https://sites.google.com/view/jabe77osaka/home>

13. 問い合わせ先

大阪大会本部事務局 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 生物科 岡本 元達

TEL：72-761-8473      FAX：072-762-1076

E-mail：gentatsu0311@gmail.com

14. 後援 大阪市教育委員会 大阪府高等学校理化教育研究会

大阪府高等学校地学教育研究会 大阪府私立中学校高等学校理科教育研究会

大阪府中学校教育理科研究会 大阪市立中学校教育研究会理科部

大阪府小学校理科教育研究協議会 大阪市小学校教育研究会理科部

# 今年度研究会ならびに協力会の総会について

今年度の大阪府高等学校生物教育研究会の総会について、研究会事務局の大阪教育大学附属高校池田校舎岡本元達先生から案内をいただきました。大阪で全国大会があるため、例年よりも早い開催になるようです。協力会では、研究会総会と講演会が終了後 10 分程度時間をいただき、協力会の総会を行うとともに、協力会から研究会への補助金の贈呈式を行いたいと考えております。ぜひ万障繰り合わせの上、ご参集いただければと思っております。

日 時 令和 5(2023)年 5 月 19 日(金) 午後 2 時 30 分より

場 所 大阪府立高津高等学校 (大阪市天王寺区天王寺区餌差町 10-47, JR 鶴橋駅, 近鉄大阪上本町駅・鶴橋駅, 大阪メトロ谷町 9 丁目駅・鶴橋駅より各徒歩 10 分)

内 容 14:30~ 大阪府高等学校生物教育研究会 総会

15:00~ 講演会 幸田 正典先生 (大阪公立大学理学研究科特任教授)

演題等は未定ですが、先生はカワズメなどの研究で有名な動物社会学研究者です。

16:40 ごろ~ 大阪府高等学校生物教育研究会協力会 (本会) 総会

## 諸連絡

### 1. 令和 4 (2022)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』会員

(2023.3.末現在、正会員・賛助会員は令和 4 年度会費納入者)

#### (正会員) (記載順はアイウエオ順)

足立 堯	石崎 英男	井上 慎一	江坂 高志	大江 進	大島 みどり
奥野 善彦	奥本 隆	小畑 和人	加賀 友子	川崎 智郎	河添 純子
北浦 隆生	木村 進	幸川 由美子	河野 成孝	佐々木 洋一	澄川 冬彦
竹林 隆昭	橋 淳治	田中 正視	辻本 昭信	寺岡 正裕	富田 織江
中井 一郎	長尾 祐司	仲田 敏弘	中野 俊勝	平岡 誠志	廣瀬 祐司
福坂 邦男	古久保 俊子	牧野 修司	松田 仁志	安井 博司	山住 一郎
吉川 浩	和佐 眞宏	渡邊 勉治郎			

(以上 39 名)

#### (賛助会員)

柴原 信彦 中村 哲也

(以上 2 名)

#### (元会員)

浅野 素雄	山田 惇	山田 孝子	寺井 見一	原田 彰	三木 正士
折井 亮夫	西河 巖	中村 武男	柿迫 修	吉村 烈	江藤 昌晴
中根 将行	奥野 善彦	杉山 友重	松本 弘		

#### (物故会員)

佐古 廣衛 原本 哲也 多々 浩爾 中原 圓 平賀 正男 梶村 重次

## 2. 令和 5(2023)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』役員

- ・会長……………大島 みどり            ・副会長……………井上 慎一
- ・幹事……………北浦 隆生, 中井 一郎, 橘 淳治
- ・賛助会員代表……………柴原 信彦 (研究会会長)
- ・事務局 (事務局長……………北浦 隆生, 会計……………中井 一郎, 会計監査……………橘 淳治)

研究会・協力会の総会、日生教全国大会については、今後の状況で変わる可能性もあります。ぜひ、先にあげた研究会の HP でご確認ください。事務局まで問い合わせいただくことも可能です。

事務局へのお問い合わせは、追手門学院大手前高等学校(06-6942-2235)中井

または、北浦 隆生 (586-0007 河内長野市松ヶ丘東町 1349-1)

中井 一郎 (545-0001 阿倍野区天王寺町北 3-4-15) まで。

### 「大阪府高等学校生物教育研究会協力会」会則

- 名称** 1 本会は「大阪府高等学校生物教育研究会協力会」と称す。
- 目的** 2 本会は、大阪府高等学校生物教育研究会（以下生物研究会と記す）の活動に協力・援助するとともに、会員相互の親睦をはかり、「生物」について研鑽することを目的とする。
- 事業** 3 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 生物研究会の活動に対する助成
  - (2) 見学・観察・研修会の開催（年 1 回程度の独自開催または生物研究会行事への参加）
  - (3) 懇親会（総会）の開催
- 事務局** 4 本会は、前条の事業を行うため、事務局を本会事務局長の自宅に、会計事務局を本会会計の自宅に置く。
- 会員** 5 本会の趣旨に賛同した次の者を会員とする。
- (1) 正会員（退職の生物研究会関係者）退職会員・名誉顧問・名誉会員
  - (2) 賛助会員（現役の生物研究会関係者）会長・副会長等の研究会会員
- 役員** 6 本会に次の役員をおく。役員は総会で選出し、その任期は 3 年とする。
- (1) 会長 1 名
  - (2) 副会長 1 名
  - (3) 幹事 若干名（事務・会計・会計監査も担当）
  - (4) 賛助会員代表 2 名
- 会議** 7 本会に次の会議を設ける。
- (1) 総会（活動計画報告、決算等を行う。また会員相互の親睦を図る。）
  - (2) 役員会（会長が必要に応じて役員を招集し、会の運営に必要な事項を決める。）
- 会費** 8 本会の会費は正会員については年間 3,000 円、賛助会員は 2,000 円とする。なお、寄付金は会費納入時または随時に受け入れる。
- 会則の改定** 9 本会の会則の改定は、総会において審議し、その決定には出席者の 3 分の 2 以上の同意を要する。
- (附則) 1. 本会の設立年月日は、2009 年 6 月 3 日とする。  
2. 本会則は、2009 年 6 月 3 日より施行する。  
3. 本会則は、2019 年 5 月 31 日にその一部を改訂し、同日よりこれを施行する。

## 大阪の生き物3 オオサカドロソコエビ *Grandidierella osakaensis*

1976年夏に大学の臨湖実習に参加しました。琵琶湖などでの生物や環境調査をしました。そのレポート作成の時点で、アンナンデールヨコエビ *Jesogammarus annandalei* (当時の学名には *Jeso-*という接頭語はついていなかった) という琵琶湖固有種のヨコエビの名前を知りました。これが、私が甲殻類の軟甲綱端脚目の生き物の名前にであった最初でした。川の底生生物に関わるようになって、ニッポンヨコエビ *Gammarus nipponensis* の名前を聞きました。比較的「きれいな水」

が流れる川の落ち葉や腐植がたまっているようなところで見ることが多いし、ダム湖下流の、ダムの底水が放流されるような地点でもこの種を見かけることがあります。一方川の下流部の汽水域の有機質が多い「汚れた水」の地点ではヨコエビのなかまのニホンドロソコエビ *Grandidierella japonica* がいることは、国土交通省と環境省が選定している河川の水環境の指標生物の中に「汚い」水の指標となっていることは知っていましたが、正直今現在まで実物を見たことはありません。私の調査範囲は、淀川水系でいえば最も下流が十三干潟(一応汽水域ですが)までなので、ニホンドロソコエビの生息範囲はほとんど調査していないためです。

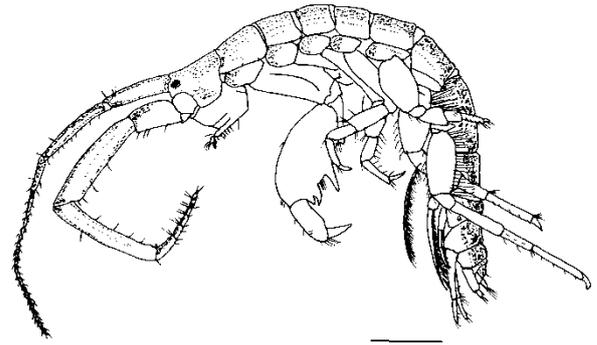
一方、研究会の大阪湾岸の生物研究部会では湾岸生物観察会を実施しておられ、ニホンドロソコエビは、川の河口部にある干潟や転石海岸の泥中からふつうに採取されておられると思います。ニホンドロソコエビは、河川の河口部の汽水域で見られる普通種なのです。

今回、「大阪」の名前のついた生き物を探していたら、オオサカドロソコエビ *Grandidierella osakaensis* という名前にヒットしました。標準和名にも学名にも「大阪」がある純大阪の生き物です。オオサカドロソコエビは、「ヨコエビガイドブック」(海文堂)の著者でもあり、現在は大阪の自然史博物館の外来研究員である有山啓之さんが、大阪湾で採取された個体を元に1996年に記載された比較的最近命名された生き物です。オオサカドロソコエビは、淡水が流入する河口部などの潮間帯中部の転石下の泥中に見られると記載されており、潮間帯から潮下帯の広い範囲に見られるニホンドロソコエビと少し生息域がずれているようです。ニホンドロソコエビの触角はほとんど色がありませんが、オオサカドロソコエビの触角はやや赤みがかった色調のようです。

オオサカドロソコエビは、大阪府のレッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類に指定されており、(有山さんの原記載のまま)淀川河口と岬町の河川の河口でのみ見られるとされていますが、東京湾の三浦半島の河川の河口部でも見つまっているという報告もあるようです。

有山さんの報告によれば、大阪湾には、ニホンドロソコエビ、オオサカドロソコエビ以外に、アカヒゲドロソコエビ、ヒメドロソコエビの4種が生息しているそうです。日本列島のドロソコエビ類はかなり多様で、その分類の確定には今すこし時間がかかりそうです。

(文責 中井一郎)



オオサカドロソコエビ (雄: 縮尺は1mm)

中井は実物を見たことがなく、有山さんの原記載論文の図と写真を元に描いています。煩雑になるので、触角や付属肢はからだの左側のものだけを描きました。河川の水環境指標となっているニホンドロソコエビにきわめて酷似していますが、触角はオレンジ色から紫色を呈します。